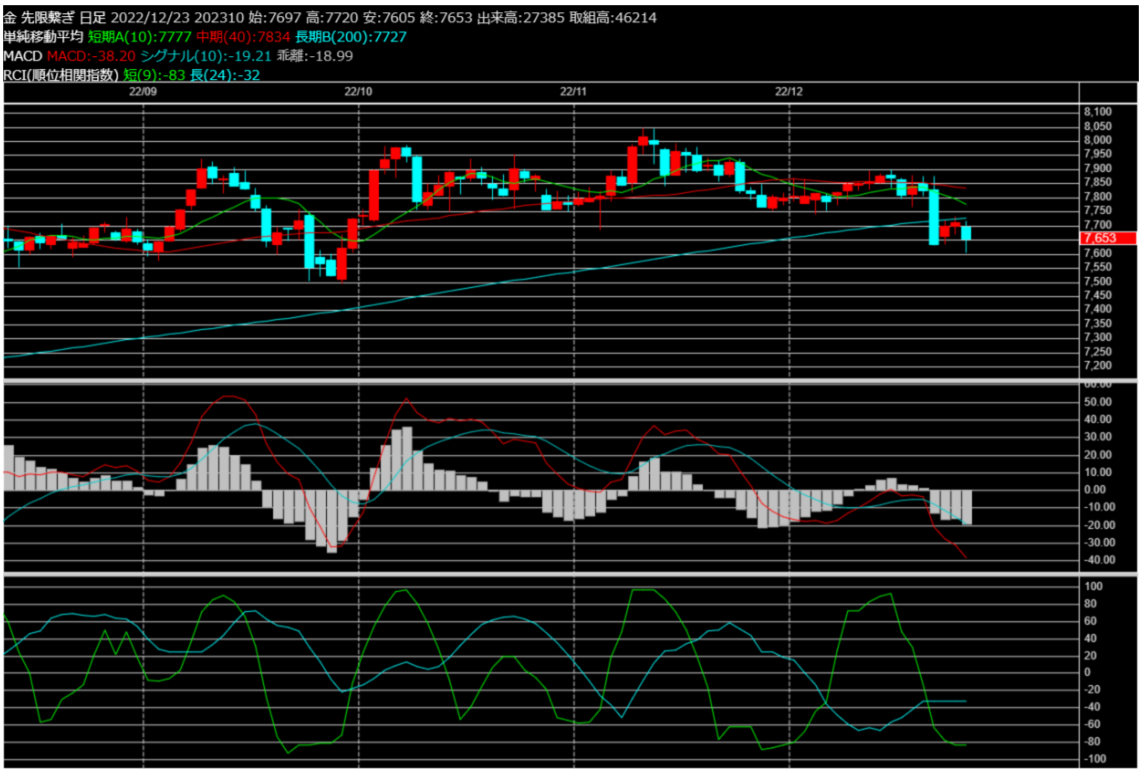
2022/12/26

＜金標準先物、YCC の柔軟化の円高で軟調・・＞



（出所：オアシス）

黒田日銀総裁の任期が来年 4 月 8 日で満了となる事を含め、今回の日銀金融政策決定会合ではイールドカーブコントロール（YCC）の許容範囲である 0.25%を 0.5%に引き上げる決定を行なっている。市場で事実上の金利引き上げのサインと判断したサプライズから円ドル相場は、137.46 円から 130.50 円まで大幅な円高・ドル安の動きを見せている。

特に円建ての金標準先物は、日銀金融政策決定会合前に 7874 円で推移したが、サプライズの円高を受けて 7632 円まで反落する動きを見せている。また米国第 3 四半期 GDP・確報値が 3.2%と改定値を上回り、新規失業保険申請件数も 21.6 万件となるなど長期に渡りインフレ抑制の動きが強まる見方を受けて NY 金が下落すると 7606 円まで下値を模索している。また米国先物取引委員会（CFTC）の 20 日までの 1 週間にネットの円ショートポジションが 8274 枚減少して 13207 枚と 8 月以来の低水準まで圧縮するなど、円の弱気ポジションを解消する動きを見せており、円建て価格が抑えられる要因へ結び付く状況である。

ただ年越しのドル需要が期待される時間帯であるが、円高の方向性は黒田日銀総裁の任期が 4 月まで会合は 2 回を残すのみを考慮すると一時的な買い戻しで 7800 円を試しても長続きはしないと思える。

＜テクニカル＞

金標準先物の日足の MACD では、MACD が下げながらシグナルも下げており、下向きが示唆されている。RCI でも短期が－80%以下で維持され、長期の上昇が止まるなど、戻り売りの印象が強く出ており、7800 円～7600 円の逆張り相場に注意した方が良いと思える。

2022/12/26

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

〇商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 3,075,000 円（2022 年 12 月 26 日現在）です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。 〇商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。 〇商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 36,080 円（2022 年 12 月 26 日現在）です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社（商品先物取引業者）の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当（東京）電話 03-3249-8827 （受付時間：平日 8:30～17:30）
証券・金融商品あっせん相談センター https://www.finmac.or.jp 日本商品先物取引協会相談センター
https://www.nisshokyo.or.jp